

東西冷戦後の思想の混同

【 共産主義(東側) × 民主主義(西側) 】

世界は西側と東側と言う、思想、経済システムなどの相違により分断し、軍事的緊張の冷戦時代が続いていました。今となれば遙か昔のことに思えますが、核兵器、核ミサイル、原子力潜水艦と言った兵器を双方の陣営が世界各地、各海域に配備しての緊張した世界情勢でした。

旧ソビエト連邦は、遂行してきた政策の最後の段階としてのペレストロイカ政策により、自主的解放政策を推進し、当時の東側といわれた国々の独立を進め、軍事支配からの解放を行い、自主的管理国家へ移行しました。

当時、東側は国家主権、共通一致の行動、思想統一、統制経済などを強力に進め、強力な国家管理を推進し、国内外に軍事力を行使していました。ただ、私は東側での実体験はありませんので、関連書籍や報道からの情報によりますが。

西側は主義、思想、宗教の自由を唱え、経済は市場経済による資本主義、国家機構は複数政党制による民主主義を主張していました。最も、第二次世界大戦当時は共産主義国家に限らず、絶対主義による軍国主義国家の脅威もありました。つまり東側陣営以外に民主主義を否定する国家が存在し、反民主主義を東側諸国に限定することが、現在の思想の混同の主原因です。

当時の「東側共産主義国家」と「絶対主義国家」は、思想的背景は相違しても、何れも共通一致の行動と思想統一により国民を国家が統一管理するという管理システムが同じであり、反共産主義であるから民主主義ではありません。つまり、共通一致の行動と思想統一と言うと共産主義の定義と考えますが、民主主義に反対する国家も同様です。

現在の西側には、思想統一、そして宗教道徳を一つの基準に集約することが規律的、国家的であると言う主張も存在し、当時の東側の国家機構を思い浮かべます。つまり、共産主義に反対の立場とは一方は民主主義、他方は絶対主義であり、この区分を間違えると民主主義の危機となりかねません。

東側の思想を西側に強制すれば思想統制、つまり当時の東側のシステムと思いますが、その逆も同様に思想統制です。

更に、東側の思想と西側の思想を強制的に統合して、その接点の思想を絶対基準として統制するのも思想統制です。思想の自由とは個人の範囲で主張する全ての思想を尊重することです。

当時の東側に同調できない理由は、思想や経済システムなどの内容ではなく、他に強要したこと、この一点です。共産主義思想であるから反民主主義ではなく、思想や主張を他に強要し思想統制を行うことが反民主主義です。

如何なる思想でも個人の範囲で唱えるのは自由であり、それを否定すれば言論の自由を否定することになります。又、自国の範囲で唱え、他国に強要しなければ原則として主権国家の権限内のことです。

自由とは何をしても良いことではないことは自明のことですが、他を強要する自由、思想を強制する自由など、自由の文言の意味を誤解した典型でしょう。

従うと言うことは、最も規範的で規律正しいと言うケースと、逆にいじめや恐喝等の犯罪に同調すると言うケースがあり、その判断をするのが個人の資質であり、自己規範をもって判断できる人間を目指したいものです。

しかし、正当性とか正義と言ったことは度外視して、どの様なことでも従うと規律正しいと賞賛し、迎合しなと共産主義思想信奉者であると決め付ける、反民主主義思想も存在するのが、現状の西側世界です。

民主主義の名の下に、自由を語り、他を強要する自由の延長線上に、無差別殺傷事件やストーカー殺人事件となるかもしれません。本人が信じる信念や私欲、私情を、他に同調させることが自由であり、服従させることが規範教育であると誤解した事件と私は考えます。

遙か昔のよき時代(私見)に、人に迷惑をかけてはならない、人に黙ってついていってはいけない、世のため人のためと言ったことを各所で聞けて、子供たちが伸び伸び育つようにと言うのが昔の町場の風景でした。

「我心を以て他人の身を制す可らず。自由と我儘の境は、他人の妨げをなすとなさざるとの間にある。人たる者は他人の権義を妨げざれば自由自在に己が身体を用いるの理あり。(学問のすゝめ)」